

---

# ファンタジーの世界に赤軍が転生したようです。

ダス・ライヒ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ファンタジーの世界に赤軍が転生したようです。

### 【Nコード】

N2883T

### 【作者名】

ダス・ライヒ

### 【あらすじ】

我々は憎きファシスト共を祖国から追い返す為、進軍中のはずであったが、絵本のような世界に飛ばされた。どうやらこの世界は貴族主義者どもが支配しているらしい、これは許せん、ただちに人民を解放し、貴族どもを根絶やしにし、この世界を共産圏に染めるのだ！

## 序章（前書き）

ひたすらソ連赤軍がファンタジーの世界を破壊するご都合主義な小説です。

## 序章

ん？ここはどこだ、我々は同士達と共に憎きファシスト共を祖国から追い返すために進軍中であつたが、見たことの無い場所にいた。途方も無く前に進んでいるとでつかい門が見えた。

最初は驚いて警戒していたが言葉通じたのでそこで我々は何処か泊まれるところは無いかと司令官殿は「話をしてくる」と言い交渉に向かった。

「すみませんがこれだけの人数と車両と止められませんでしょうか？」

「ああ、別にいいが貴様ら、貴族なのか？」

「いえ、自分はモスクワ生まれなものでして貴族とは無縁でございます。」

「そうか、なれば去れ！貴族で無い者は入れん！」

「……………そうですかでは、出直して来ますので。」

「は？」

どうやら交渉は失敗に終わつたらしく司令官殿が帰つてきた。司令官殿の話によれば貴族で無い者は入れないらしい、

その時、我々の何かが切れた。

次回

「王国崩壊」



序章（後書き）

脱字、誤文字、感想があれば、感想にて

## 王国崩壊 1

よし、これで奴ら帰ったろう。

「出直して来る」とか言っておったが  
平民が戻ってくるなんてどうせ嘘に決まっておる。

キュラキュラキュラキュラキュラ

「おい！何だこの音は！？」

「知らん！俺にもわからん！」

何やら兵共が慌てている様だ。  
奇妙な音まで聞こえて来る。

何の音だ。

追い返されたソビエト軍の大佐スコロビッチはKV2と呼ばれる戦車の出動を命じた。

説明しよう、KV2とは。

1939年、冬戦争時フィンランド軍の強固な防衛陣地を突破する為にKV1をベースに開発された重戦車である。1940年2月11日にフィンランドのスンマ地区にて初めて実戦投入される。

投入された同車はフィンランド陸軍が所有するボフォース 37mm対戦車砲弾48発を食らったにもかかわらず、その重装甲で弾き、全く機能に支障を来たさなかつたことで早速正式採用された。

その後、KV2は40年から41年にわたって202両試作生産された。

しかし、車体を傾いた状態すれば砲塔が動かなくなるゆう欠点や機動性に難を抱えていた為、

開戦後、生産は打ち切られ、少数に止まった。

独ソ戦開戦後は増加増加試作型、量産型ともに投入され、その巨大と重装甲でドイツ兵達を驚愕させ、巨大キガントと呼ばれた。

なぜ、この部隊にKV2が配備されたかと言うと、T34/85の配備が遅れており、火力を補う為にそのまま使われている。

出動したKV2はまっすぐに門へ進んだ。

門兵達は見たことも無いその動くでかい鉄の塊に驚愕した。

その後、門の前に来たKV12は止まること無く、門をぶち破った。門兵達は驚き戸惑ったが、やがて体制を立て直し弓やボウガンを放つが、効くはずも無く、無力であった。

その後、後続のT34中戦車やSU152やZSU37、T20、トラック数台、装甲車数台に突破された。

門兵達はただ啞然としていた。

突破したソ連軍には死者、負傷者はいなかった。

次回、

王国崩壊2



## 王国崩壊1（後書き）

やっと書けたぜ。

作者のソ連軍で好きな戦車はKV2です。

ちなみにスコロビッチは一話の司令官です。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2883t/>

---

ファンタジーの世界に赤軍が転生したようです。

2011年10月8日13時27分発行